

迎春

令和六年

辰



新年のご挨拶



病院長 小池 和彦

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

今年は十干が「甲(きのえ)」、十二支が「辰(たつ)」の年にあたるので、干支(えと)は「甲辰(きのえ・たつ)」だそうです。甲辰には、「成功という芽が成長していき、姿を整えていく」といった縁起の良さが表されている様です。停滞を続けてきた世の中がCOVID-19の呪縛から逃れ、希望が芽吹く春がようやくやって来る気分です。

昨年を振り返ってみますと、まだ新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の話題が中心になってしまいます(来年は話題にならないことを願っています)。皆様ご存じの様に、5月8日に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に変更され、感染者数もインフルエンザと同様に「定点観測」の数値のみが公表されることになりました。ちょっとややこしかったのは、春先から、政府が首相を使って「マスクを外そう」キャンペーンを始めたことでした。5類への変更が、人の移動が増加したゴールデンウィーク直後だったこともあり、医療従事者は感染者の急増を予想して心配しておりました(実際、第9波となりました)。大爆発とはならなかったものの、収束には時間を要しました。私などは、「日本政府は、わざと無策によって既感染者を増やし、(他国に比して遅れていた)集団免疫の達成を目論んでいるに違いない。」と考えておりました。やはり救急医療体制にはかなりの影響が出ましたが、幸い、第8波の時ほどではなく、10月頃には世の中も落ち着いてきました。そして、マスクをしている人の割合も減少し、どうやら政府の目論見に近づいている様にも見受けられます。第10波が来ないことを祈っています。

今日は、私の専門の一つである**肝臓病**について話をしましょう。これまで、我が国の肝臓病はB型肝炎やC型肝炎というウイルス性のものが多くを占めていました。ところが、最近、ウイルス性ではないのに重い肝臓病(肝硬変、肝がん)になる人が増えてきました。お酒も多少悪さをしますが、新たな肝臓病は「代謝性肝疾患」と呼ばれ、肥満や糖尿病、脂質異常症と密接に関連することがわかって来ました。「脂肪肝」や「脂肪性肝炎」などが含まれ、進行性のものも少なくありません。問題は、これまではB型肝炎やC型肝炎の血中ウイルスを調べることで「ハイリスク」の人を絞り込むことができましたが、「代謝性肝疾患」では絞り込みが難しいことです。そこで、私が以前に理事長をしていた日本肝臓学会では「**奈良宣言2023**」を発出して、ハイリスクの人を見逃さない取り組みを始めたのです。

[肝臓学会奈良宣言]とクリックしていただくとWebの説明ページを見る事ができます。 →

https://www.jsh.or.jp/medical/nara_sengen/ippan.html



一般的な健康診断などで、肝機能検査として血液検査で広く測定されている**ALT(エー・エル・ティー)値が30を超えていた場合**、まずかかりつけ医等を受診することが勧められています。かかりつけ医で採血や腹部超音波検査などを受け、必要と判断されれば、さらに消化器内科におけるより詳しい検査を受けることで、肝疾患の早期発見・早期治療に繋げることができます。これまでに健診などでALT>30を指摘されたことがある人は、当院では肝胆膵内科を受診すると詳しい診察を受ける事ができます。今年こそは、ビヨンド・コロナ時代における生活、仕事、イベント、社会の在り方、医療の在り方などを考え、新型コロナ以外の健康障害を減らしていく努力をして参りましょう。